

Title	プレプリントサーバーを活用した未査読学術論文の公表と活用 : 動向および認識の探索
Author(s)	井出, 和希
Citation	
Version Type	VoR
URL	<a href="https://doi.org/10.18910/91235">https://doi.org/10.18910/91235</a>
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

2023年4月26日(水)13:30-16:15

一般財団法人 新技術振興渡辺記念会 成果報告会

# プレプリントサーバーを活用した未査読学術論文の 公表と活用：動向および認識の探索

井出和希

大阪大学

感染症総合教育研究拠点 科学情報・公共政策部門

社会技術共創研究センター(ELSIセンター)

文部科学省 科学技術・学術政策研究所(NISTEP)



# 背景: プレプリントのはじまり～近年



専門家の審査を受けていない論文  
プレプリント

- **未査読**の成果を公開する仕組み 前かは△
- 1991年に開始されたarXiv(アーカイブ)が特に有名(物理・数学中心)
- 2000年代、様々な分野に波及
- 2019年、**医学系**プレプリントサーバーが立ち上がる(medRxiv)
- 2022年、**科学技術振興機構(JST)**の運営する**Jxiv**が始動

有用性

迅速な成果の共有(=先取権)  
公開・可視化、議論の促進

速報としての活用が顕著に進む

不確かな情報の社会や政策への  
影響も懸念される



50以上存在<sup>1</sup>

1. Malički M et al. JAMA. 2020; 324: 1901-1903.

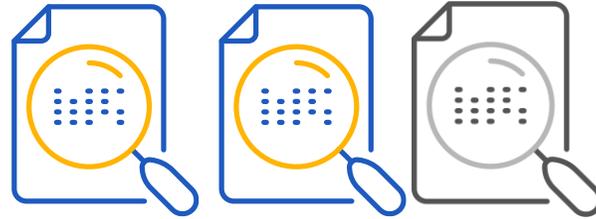
# 目的

プレプリントサーバーの現状を明らかにすると共に、  
一般市民および研究者の認識を探索することを目的に調査を実施した

# 方法I: プレプリントサーバーの現状の調査

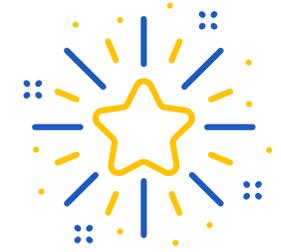


プレプリントサーバー  
抽出



詳細の調査

名称  
継続性  
掲載論文数  
識別子 (DOI?)  
改訂履歴 = 追跡性



集約



現状 & 課題  
把握



科学技術・学術審議会情報委員会  
ジャーナル問題検討部会(第7回)の資料<sup>1</sup>を参考に調査  
2022年9月時点のプレプリントサーバーの情報を集約

主要調査項目:

名称、サービス継続の有無、掲載論文数  
識別子 Digital Object Identifier (DOI) が使用されているか  
改訂履歴の有無 (= 追跡可能性が担保されているか)

1. ジャーナル問題検討部会(第7回)資料. URL: [https://www.mext.go.jp/kaigisiryoy/2020/03/mext\\_00013.html](https://www.mext.go.jp/kaigisiryoy/2020/03/mext_00013.html)

# 結果I: 68種類のプレプリントサーバー、改訂履歴ありは7割程度



## 68種類のプレプリントサーバー

86.8% (59種類) は現在も運用継続

OSFの枠組みで**2,368,036報**

OSF Preprints以外にarXiv やbioRxivの論文も集約  
全体の35%をカバーする

79.4% (54種類) は識別子 = DOI

70.6% (48種類) は改訂履歴あり

▲ **3割弱** は改訂履歴がない  
= **追跡可能性が担保されない**

## 方法II: 一般市民の認識の探索

2021年7月実施

調査パネル(マクロミル社登録モニター、20~69歳)対象

**1,000名の回答を想定**

人口構成比に基づく割付を行い、インターネットを介して実施

### 調査項目

ニュースに触れる頻度

大学等研究機関の成果に関するニュースを目にした経験

プレスリリースを直接閲覧することがあるか

学術論文を審査する過程(査読)

プレプリントがニュースの根拠になり得ることへの認知

根拠の明確さ等



結果II: ニュースを見る機会が多いが、大学等の成果に直接触れる機会は限られている

回答者数: 1,086名 (男性49.8%、女性50.2%; 年齢の中央値47歳)

大学・大学院卒 41.0%

テレビ、新聞、インターネット(ニュースアプリを含む)などの媒体を問わず、  
大学などの研究機関の成果に関するニュースを目にしたことはありますか？

ある **555 (51.1%)**

媒体を問わず、どのくらいの頻度でニュースをみますか？

週1日未満 118 (10.9%)

週1~2日 59 (5.4%)

週3~4日 114 (10.5%)

週5日以上 **795 (73.2%)**

大学などの研究機関が発信する研究成果に関する情報(プレスリリース)を直接  
(大学のウェブページや公式SNS、記者会見などを通して)見たことはありますか？

ある **182 (16.8%)**

## 結果II: プレプリントの認知、報道への要望—明確さの不足—

---

研究成果が学術論文として発表されるまでには、  
専門家による審査(査読と呼ばれます)があることをご存知でしたか？

**知らなかった** 717(66.0%)

プレプリントがプレスリリースやニュースの根拠になることもあります。\*

このことをご存知でしたか？

**知らなかった** 932(85.8%)

プレスリリースやニュースにおいて、根拠となる成果が専門家による審査(査読)を受けて  
出版されたものであるかどうか「明確に」示されていると思いますか？\*

**思わない** 408(73.5%)

---

\*文意を変えずに、文章を短縮した

## 方法III: 研究者の認識の探索



2022年9月～10月実施

日本分子生物学会会員(会員数: 11,792名)対象  
メーリングリスト及びFBで依頼

**調査項目**(プレプリント関連を抜粋)

プレプリントに対する認知

参照・引用経験

投稿・公開経験、希望

一投稿・公開を希望しない理由

学術コミュニティにおける今後の位置づけ

受理済み論文:

**Ide K**, Nakayama J. Researchers support preprints and open access publishing, but with reservations: A questionnaire survey of MBSJ members. *Genes Cells*. 2023, *in press*.

## 結果III: 多くの研究者はプレプリントを認知しているが、扱いには迷いがある？

回答者数: 633名 (男性70.3%、女性29.4%; 40代が28.4%)

大学・研究機関の教職員 79.0%

---

未査読の論文のことを意味する「プレプリント (preprint)」という言葉をご存知ですか？

はい 540 (86.5%)

これまでに「プレプリント」の情報を参照したことがありますか？

—プレプリントを知っている回答者が対象

はい 425 (78.7%)

これまでに「プレプリント」を投稿・公開したことがありますか？

ある 183 (33.9%)

今後「プレプリント」を投稿・公開したいと思いませんか？

はい 300 (55.6%)

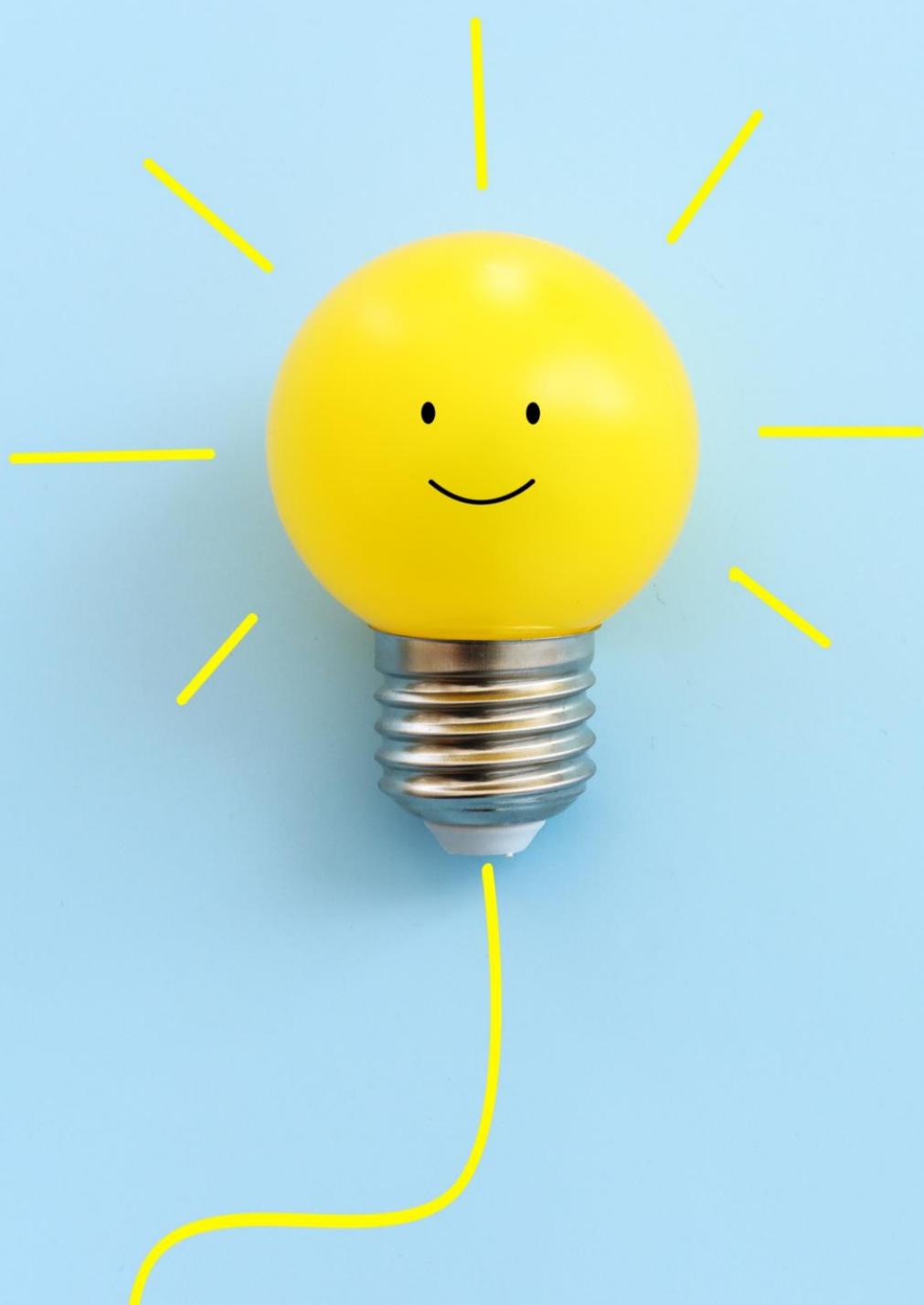
分子生物学領域において、今後「プレプリント」の活用が進むと思いませんか？

はい 421 (78.0%)

---

## 考察&まとめ

- ✓ 68種類のプレプリントサーバーが存在し、85%以上は運用が継続、公開論文数からも活用が進んでいる
- ✓ 約2割はDOIを用いておらず、約3割は改訂履歴がない(=追跡可能性が担保▲)
- ✓ 7割以上の一般市民は、報道の根拠が査読済みかが明確に示されているとは思っていない
- ✓ 研究者は8割以上がプレプリントを認知しているが、公開経験があるのは約3割  
公開希望は5割程度に留まる(どのように扱うかも定まっていない)
- ✓ 大学などの研究機関に加え、メディアも報道の根拠となる成果が査読を経たものであるかどうかを明示する必要  
審査を経たとしても不確かさをもつ研究の成果について、プレプリント段階で報道すべきかどうか也十分に考えなくてはならない



ご清聴いただき、ありがとうございました

謝辞：

本研究課題の推進に係る

一般財団法人 新技術振興渡辺記念会からの  
ご支援に御礼申し上げます